

青少年に科学を好きになってもらうワークショップの開催

株式会社リコー リコー・サイエンスキャラバン

およびリコーグループの社員ボランティアの皆様

【パートナー団体：公益財団法人 日本科学技術振興財団他】

■活動の目的:

- 1)子どもたちの科学への関心を高め、理科離れの解決に寄与するため、リコーグループのリソース(人材・製品・技術)を活用した科学実験ワークショップを全国の科学館や学校で実施しています。
- 2)ワークショップで実施するプログラム開発には、技術者をはじめとする関連部門の社員が参加しています。また、各地域のリコーグループ社員にボランティアとして参加してもらうことで、会社への誇りや働き甲斐につなげています。

■活動を始めたきっかけ(活動開始:2007年5月):

“子どもたちの理科離れ”の解決の一助となるべく、ある技術者がコピーの基本プロセスを学習する『コピー機になってみよう!』というプログラムを開発し、全国各地の科学イベントで実施したことがきっかけとなります。その後、コピー機だけでなくカメラやプリンターに関連したプログラムも開発しています。

■活動内容(ボランティア実数 2022年4月~2023年10月 246名):

1) 科学イベントおよび学校の探究授業でのワークショップ開催



自社のリソース(人材・製品・技術)を活用した科学実験ワークショップを全国の科学イベントや学校の探究授業で実施しています。自社で開発した以下のプログラムは、社員が子どもたちにレクチャーし、実験/体験を通じて理解を深めてもらう内容となっています。

①『360度カメラとあそぼう!』

デジタルカメラの基本的な仕組みについて学びます。最初に、実際に使われている部品を観察しながら役割について学習します。リコーで開発した360度カメラで撮影した写真をタブレットで投影し、画面上で上下左右に動かす体験をしながら、理解を深めてもらいます。

②『SDGsを学んでみよう 環境:プラスチック編』

SDGsの基本を学習した後、社会問題のひとつであるプラスチックに特化して、循環型社会・3R活動、国内外、リコーグループの取り組みを学びます。そして、子どもたちが自分たちで取り組める内容を探究(検討)します。

2)社員参加(プログラム開発時とワークショップ開催時)

プログラム開発時には、専門性をもつ技術者をはじめとする関連部門の社員が参加しています。的当て実験、色混ぜ実験、プログラムの実験キャラクターのイラスト制作など、子どもたちが興味を持ちそうな内容を社員がアイデアを出し合ってプログラムを作り上げています。

また、科学イベントや学校の探究型授業で実施するワークショップ開催時に



は、社員がボランティアスタッフとして参加します。説明員として体験/実験のサポートなどをし、科学の楽しさを伝えながら子どもたちとコミュニケーションをとります。そのような機会を持つことで、プログラムへの理解を深め、社会人と触れ合うことで仕事への興味を高める等、キャリア教育にもつながっています。

3) パートナー団体様

本活動は、東京で開催される『青少年の科学の祭典 全国大会』主催者の(公財)日本科学技術振興財団様をはじめとして、各地域で開催される科学イベント主催者の科学館や教育委員会・学校などの団体様と連携して実施しています。

■活動の成果(2022年度のアンケート結果より):

●イベント開催件数:24 件、●連携した団体:24 団体(学校や科学館など)、●体験した子ども数:1,154 名、●グループ社員(ボランティア):140 名、●活動後の社員アンケートで 98%が”満足した”と回答、●子どもたちへのアンケートの設問「もっといろいろな体験をしてみたいか?」の回答率で活動の効果を図り、93%の子どもが「してみたい」と回答し、理科離れの解消に寄与していると感じています。

■強調したいこと:

1) リコー社員が主体的に活動している

本活動では社会貢献部門に所属する社員 2 名を中心に運営・推進をしています。イベントでは主に社員ボランティアが子どもたちへ説明をしながら交流を図り、科学の楽しさを伝えています。



2) コミュニティや非営利団体のニーズに対応している

子どもたちが科学技術に親しむ環境づくりを目的とする『青少年のための科学の祭典』など、パートナー団体(非営利団体)様が開催する科学イベントは、弊社の活動の目的と合致しており、親和性があります。2023 年度からは活動後にパートナー団体(イベント主催者や学校の先生等)様にアンケートで弊社活動に対する満足度を測っており、全パートナー団体様から「非常に満足した」との回答をいただいております。

3) リコーグループで働いている人たちが参加しやすく、自社のリソースやアイデアが活用されている

参加してもらう社員ボランティアは、イベントの開催地域でその都度募集しており、地方開催の際はグループ会社に協力要請し、積極的に参加していただき、社員の働き甲斐にもつながっています。

プログラムを開発する時は、専門性をもつ技術者をはじめとする関連部門の社員が参画し、専門用語を子どもたちにとってわかりやすい表現にするなど、一緒に検討しています。また、学校での探究型授業の際にもボランティアとして参加し、子どもたちからの質問や問いに対して回答しています。

第9回企業ボランティア・アワード『特別賞』